



# 図書館だより

朝日中図書館  
第2号  
令和8年5月発行

入学、進級して1ヶ月が経ちました。生徒のみなさんも新年度の生活に少しずつ慣れてきた頃でしょうか。桜の花びらも散り、新芽が伸びてきました。これからは朝日の山々の新緑がとても気持ちの良い季節ですね。さて、図書館には新たに11冊の新刊が仲間入りしました！電子書籍やYouTubeなどICT化が進んでいる便利な現代社会ですが、メディアから少しだけ離れて、読書の時間を楽しんでみてはいかがでしょうか📖💡

■書名■	著者
書籍のみどころ PR	出版社
■イン・ザ・メガチャーチ■	朝井リョウ
2026年本屋大賞受賞作品！沈みゆく列島で、“界限”は沸騰する——。 あるアイドルグループの運営に参画することになった、家族と離れて暮らす男。内向的で繊細な気質ゆえ積み重なる心労を癒やしたい大学生。仲間と楽しく舞台俳優を応援していたが、とある報道で状況が一変する女。ファンダム経済を仕掛ける側、のめり込む側、かつてのめり込んでいた側——世代も立場も異なる3つの視点から、人の心を動かす“物語”の功罪を炙り出す。	日経 BP 日本経済新聞出版
■暁星■	湊かなえ
現役の文部科学大臣で文壇の大御所作家でもある清水義之が全国高校生総合文化祭の式典の最中、舞台袖から飛び出してきた男に刺されて死亡する事件がおきた。逮捕された男の名前は永瀬暁、37歳。永瀬は逮捕されたのち、週刊誌に手記を発表しはじめる。そこには、清水が深く関わっているとされる新興宗教に対する恨みが綴られていた。また、式典に出席していた作家は、永瀬の事件を小説として描く。ノンフィクションとフィクション、ふたつの物語が合わさった時に見える景色とは?!	双葉社
■PRIZE■	村山由佳
村山由佳が描く、業界震撼の“作家”小説！ 「どうしても直木賞が欲しい……！」賞（prize）という栄誉を癡狂に追い求める、あるベストセラー作家と彼女を取り巻く人間たちの、破壊的な情熱がほとばしる衝撃作！	文藝春秋
■成瀬は都を駆け抜ける■	宮島未奈
成瀬シリーズ堂々完結！！唯一無二の主人公が、今度は京都を駆け巡る！ 膳所高校を卒業し、晴れて京大生となった成瀬あかり。一世代の恋に破れた同級生、「達磨研究会」なる謎のサークル、簿記YouTuber、娘とともに地元テレビの取材を受ける母、憧れの人に一途に恋焦がれる男子大学生……。千年の都を舞台に、ますます個性豊かな面々が成瀬あかり史に名を刻む中、幼馴染の島崎のもとには成瀬から突然速達が届いて……。!? 全6篇、最高の主人公に訪れる大団円を見届けよ！	新潮社
■世界の科学が証明した絶対に考えてはいけないことリスト■	堀田秀吾
現代人の“止まらない思考”をどう止めるか。脳の負担を軽くする実践書。私たちが1日にもっとも多く会話する相手は、他の誰でもない「自分自身」。仕事の合間に、帰り道に、夜布団に入ってから——頭の中では絶えず「内なる声」が話し続けている。この“自分との対話”は、時に気づきを与えてくれるものの、多くの場合は悩みや不安、自己否定を増幅させる思考の沼となります。なぜなら、その“内なる声”は必ずしも成熟した助言者ではなく、時に未熟で自己攻撃的な存在でもあるからです。とくに現代社会では、SNSや情報過多により「他人と比べる」「評価を気にする」クセが強まり、さらに自己対話が加速しています。そこで本書では、「考えてはいけないこと」をあえて「リスト化」しました。思考の渦に飲み込まれそうになったときにリストを参照すれば、「これは考えると不幸になるだけだな」と気づくことができ、一時的にせよ思考をストップするきっかけになるはず。さらに、スキルとしての「考えない方法」も、随所に記しました。「考えない自由」を手にしたとき、あなたの毎日はもっとやさしく、もっと軽やかになります。ページをめくるたびに、あなたの中に「考えない自信」が芽生えていくはずですよ。	フォレスト出版
■ロイヤルホストで夜まで語り合い■	青木さやか著 朝井リョウ著 他15名
豪華執筆陣17名による“ロイヤルホスト愛”でいっぱいのエッセイアンソロジー。藤井隆さん、ハリセンボンの近藤春菜さん、箕輪はるかさんによる特別会談も収録！	朝日新聞出版

裏面へつづく…📖

<p align="center"><b>■書名■</b></p>	<p align="center">著者</p>
<p align="center">書籍みどころ PR</p>	<p align="center">出版社</p>
<p><b>■エピクロスの処方箋■</b></p>	<p align="center">夏川草介</p>
<p>「医療では、人は救えないんだよ」 現役医師が描く、人の命と幸福について。2024 年本屋大賞第四位&amp;京都本大賞受賞、映画化決定の感動作『スピノザの診察室』続編、ついに刊行!</p>	<p align="center">水鈴社</p>
<p><b>■失われた<sup>かお</sup>貌■</b></p>	<p align="center">櫻田智也</p>
<p>周到に張られた伏線 閃きを導く手がかり。最後に裏返る真実 本を閉じた後に意味合いを変えるタイトル。ミステリーに求めるすべてがここにある。これぞ、至高!</p>	<p align="center">新潮社</p>
<p><b>■さよならジャバウォック■</b></p>	<p align="center">伊坂幸太郎</p>
<p>&lt;デビュー25周年&gt;渾身の書き下ろし長編ミステリー! 結婚直後の妊娠と夫の転勤。その頃から夫は別人のように冷たくなった。彼からの暴言にも耐え、息子を育ててきたが、ついに暴力をふるわれた。そして今、自宅マンションの浴室で夫が倒れている。夫は死んだ、死んでいる。私が殺したのだ。もうそろそろ息子の翔が幼稚園から帰ってくるというのに…。途方に暮れていたところ、2週間前に近所ではったり会った大学時代のサークルの後輩・桂凍朗が訪ねてきた。「量子さん、問題が起きていますよね? 中に入れてください」と…。</p>	<p align="center">双葉社</p>
<p><b>■探偵小石は恋しない■</b></p>	<p align="center">森バジル</p>
<p>ネタバレ厳禁。驚愕体験の本格ミステリー! 小石探偵事務所の代表でミステリオタクの小石は、名探偵のように華麗に事件を解決する日を夢見ている。だが実際は9割9分が不倫や浮気の調査依頼で、推理案件の依頼は一向にこない。小石がそれでも調査をこなすのは、実はある理由から色恋調査が「病的に得意」だから。相変わらず色恋案件ばかり、かと思いきや、相談員の蓮杖と小石が意外な真相を目の当たりにする裏で、思いもよらない事件が進行していて――。</p>	<p align="center">小学館</p>
<p><b>■老人ホームで死ぬほどモテたい■</b></p>	<p align="center">上坂あゆ美</p>
<p>(新鋭短歌シリーズ)思わぬ場所から矢が飛んでくる!自分の魂を守りながら生きていくための短歌は、パンチ力抜群。絶望を噛みしめたあとの諦念とおおらかさが同居している。</p>	<p align="center">書肆侃侃房</p>

